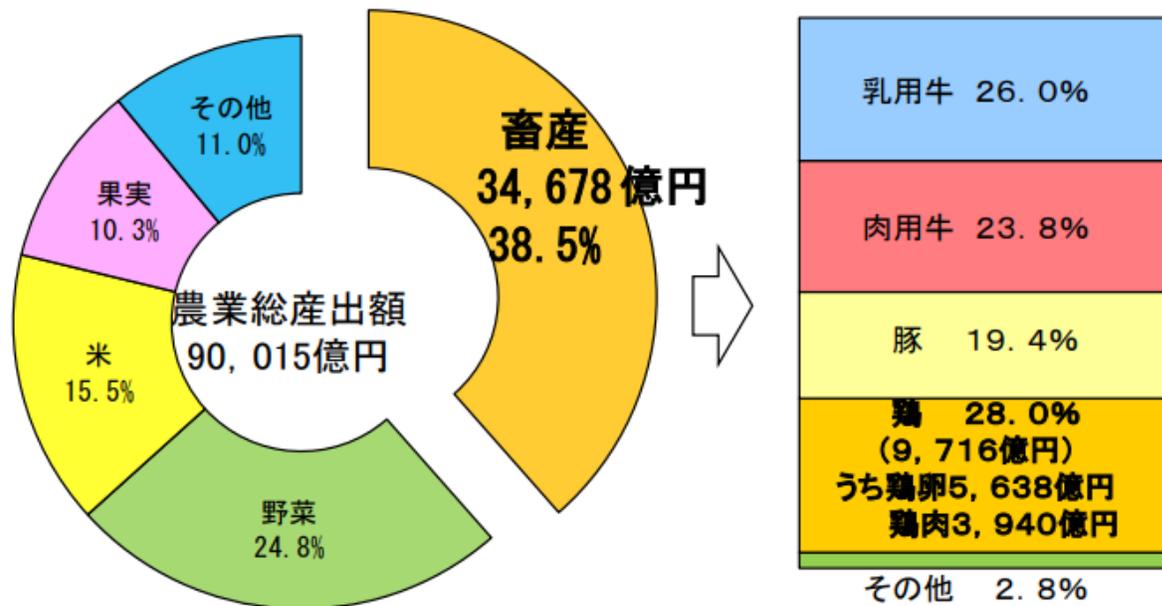


鶏肉の生産需給と流通消費の概況

一般社団法人日本食鳥協会

農業産出額の畜産の占める割合

- 我が国の養鶏は、農業総産出額の約39%を占める畜産のうち約28%のシェア。鶏卵産出額は、農業総産出額のうち約6%、畜産のうち約16%。鶏肉産出額は、農業総産出額のうち約4%、畜産のうち約11%。
- 鶏卵産出額は茨城県が最も多く、産出額の上位5つの県で全国の産出額の約31%を占める。
- 鶏肉産出額は鹿児島県が最も多く、産出額の上位5つの県で全国の産出額の約66%を占める。



○ 鶏卵の産出額の多い都道府県

順位	都道府県	産出額（億円）	全国に占める割合
1	茨城県	548	9.7%
2	鹿児島県	316	5.6%
3	岡山県	308	5.5%
4	千葉県	297	5.3%
5	広島県	284	5.0%
計		1,753	31.1%

○ 鶏肉の産出額の多い都道府県

順位	都道府県	産出額（億円）	全国に占める割合
1	鹿児島県	889	22.6%
2	宮崎県	762	19.3%
3	岩手県	599	15.2%
4	青森県	217	5.5%
5	北海道	152	3.9%
計		2,619	66.5%

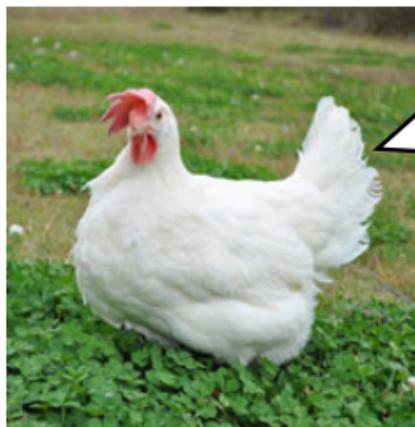
資料：農林水産省「生産農業所得統計」（令和4年）

※産出額とは、農業生産活動による最終生産物の総産出額。

家畜・家きんの種類:鶏

- ・ 鶏には、主として、卵を生産する「卵用種」と、ブロイラーなど肉用として飼養される「肉用種」がある。
 - ・ 在来鶏に、その特徴を生かしつつ卵の生産性の高い品種などを交配することにより、「地鶏」の生産が行われている。
- ※ 「卵肉兼用種」もある。

卵用種



白色レグホン
代表的な卵用種。
産卵数は供用初年
度で250~290個と
多産。

肉用種



白色プリマスロック
この雌と「白色コー
ニッシュ」という品種
の雄を掛け合わせた
ものが、ブロイラーの
主流。

卵肉兼用種

横斑プリマスロック
代表的な卵肉兼用種。産卵
数は卵用鶏と遜色なく多産。
食肉としても美味。

(独)家畜改良センターが開発
した「岡崎おうはん」がある。



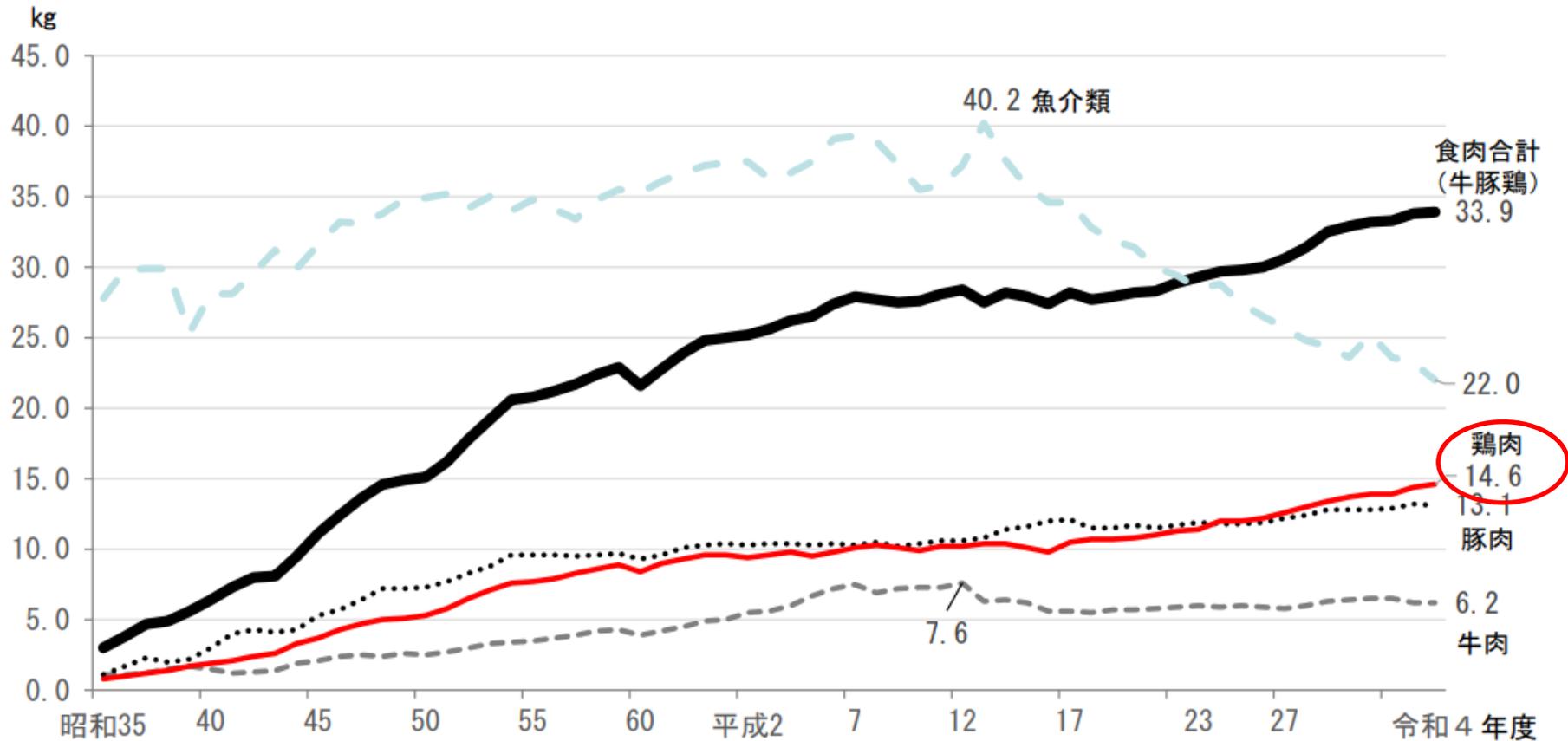
比内地鶏
写真は比内鶏
(在来鶏)。この
雄と「ロードアイラ
ンドレッド」という
品種の雌を掛け
合わせて「比内
地鶏」という銘柄
で食用に供され
ている。



鶏肉の消費

- ・ 鶏肉の1人当たり年間消費量は14.6kgで豚肉を超え、食肉の中で最も多い消費量。
- ・ 牛肉消費が横ばいで推移する一方、豚肉とともに鶏肉消費量は増加傾向。

○食肉消費量の推移

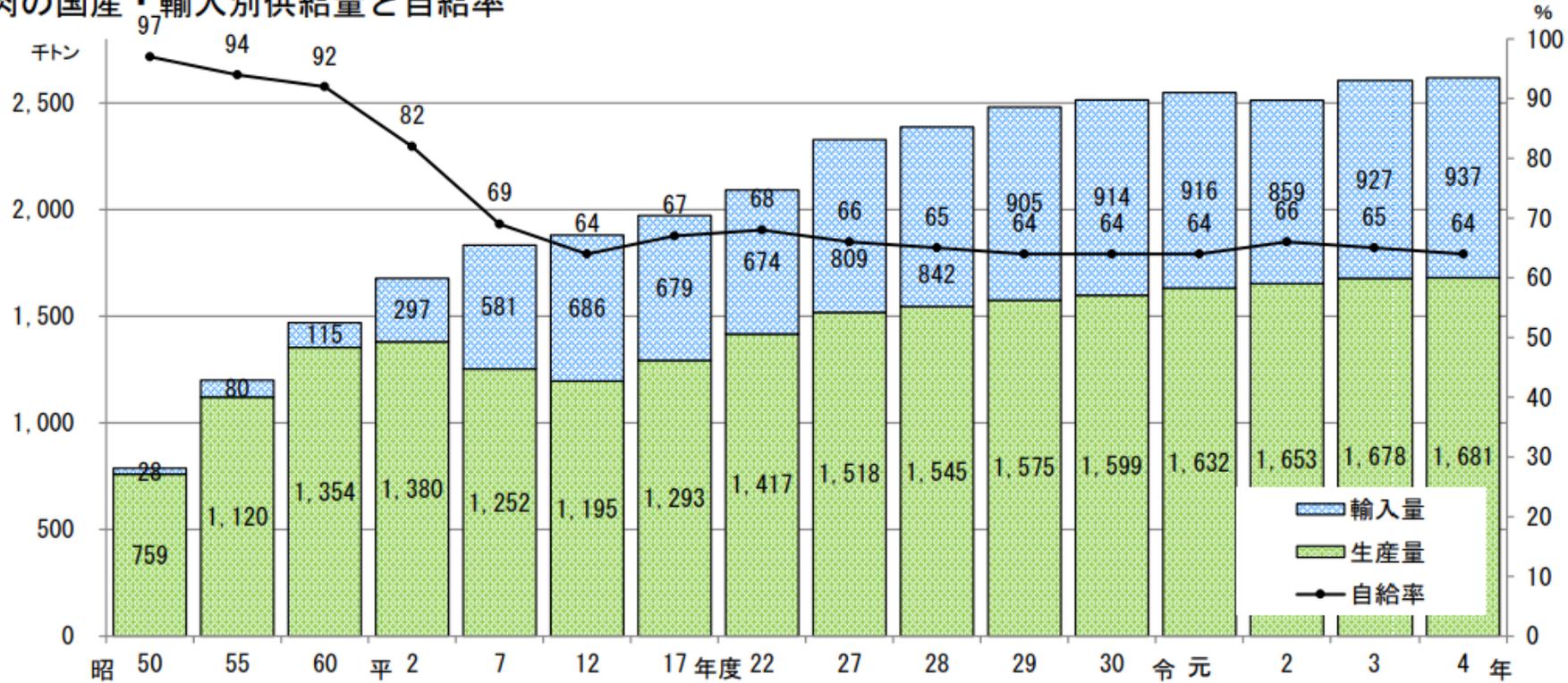


資料：農林水産省「食料需給表」
注：1人1年当たり供給純食料

鶏肉の需給

- ・ 鶏肉の需要は、近年増加傾向で推移。
- ・ 生産量、輸入量とも増加傾向。自給率は64%でほぼ横ばい、家計消費量と外食消費量の割合はほぼ1：1。

○ 鶏肉の国産・輸入別供給量と自給率



資料：農林水産省「食料需給表」

注1：令和4年は概算値

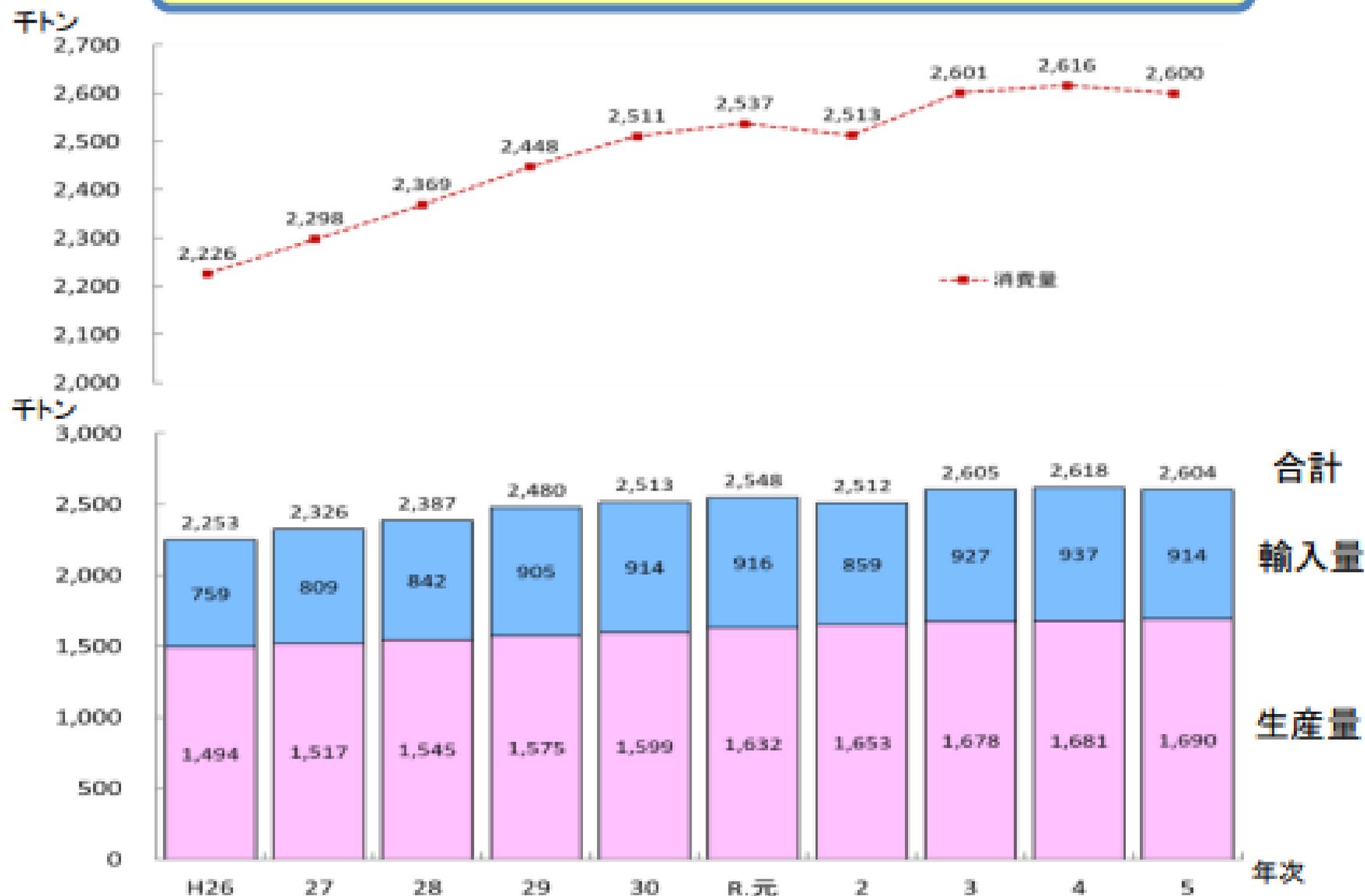
注2：平成21年度以降は年次ベース

注3：自給率＝国内生産量／国内消費仕向量（＝国内生産量＋輸入量－輸出量）

○ 鶏肉の用途別供給割合



鶏肉需給の推移(調製品を含む)



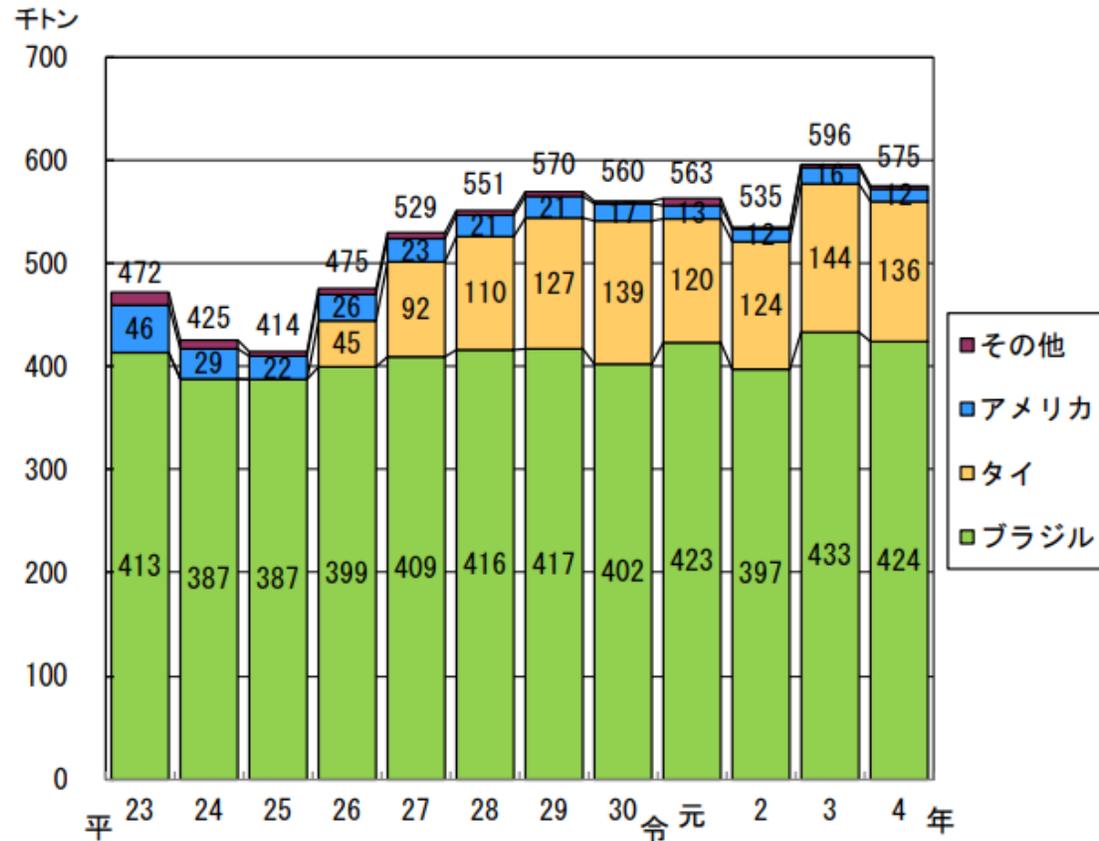
資料:農林水産省「食料需給表」

注1:消費量は、「生産量+輸入量-輸出量-在庫の増加量」により推計。

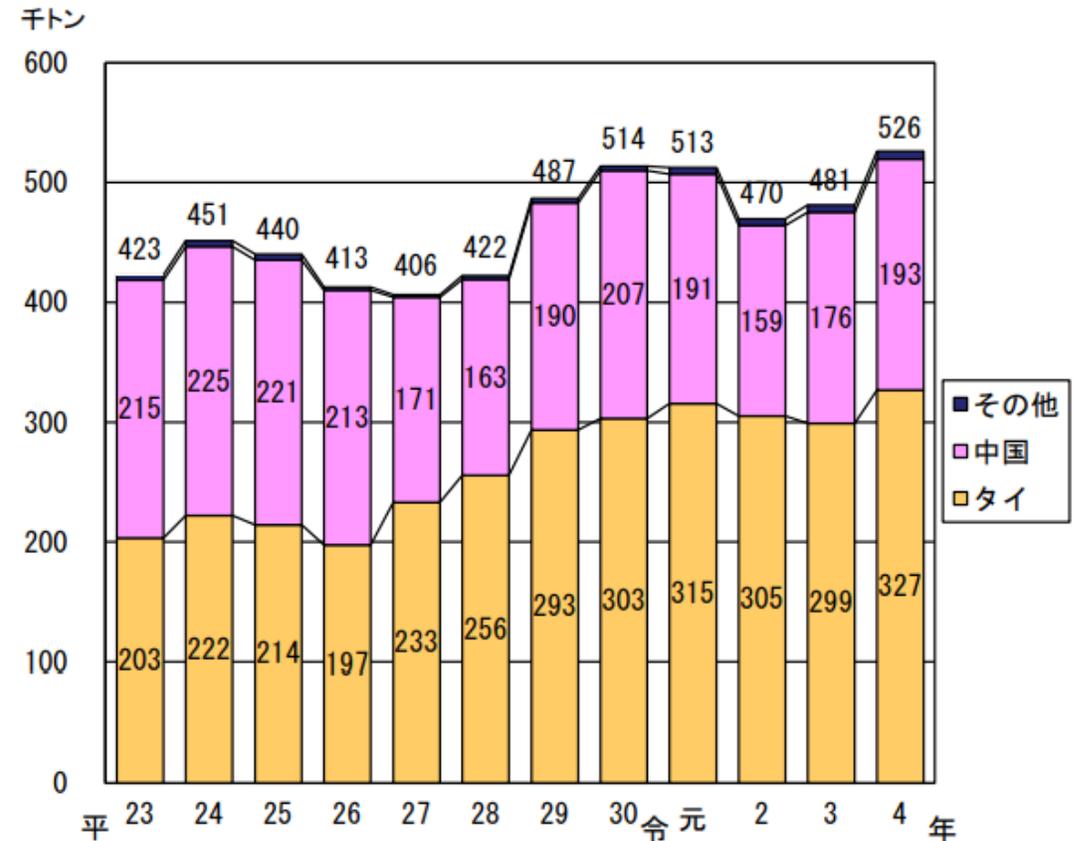
鶏肉等の輸入

- 令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により外食需要が減退したことから、輸入量は前年を下回ったが、令和3年は需要が回復し、前年を上回った。
- 令和4年は、前年のブラジルからの輸入量が多かったこと及び米国での鳥インフルエンザの発生の影響で、輸入量が減少した。
- 鶏肉調製品の輸入量は、タイ及び中国からの輸入でほぼ全量を占めている。

○ 鶏肉輸入量の推移

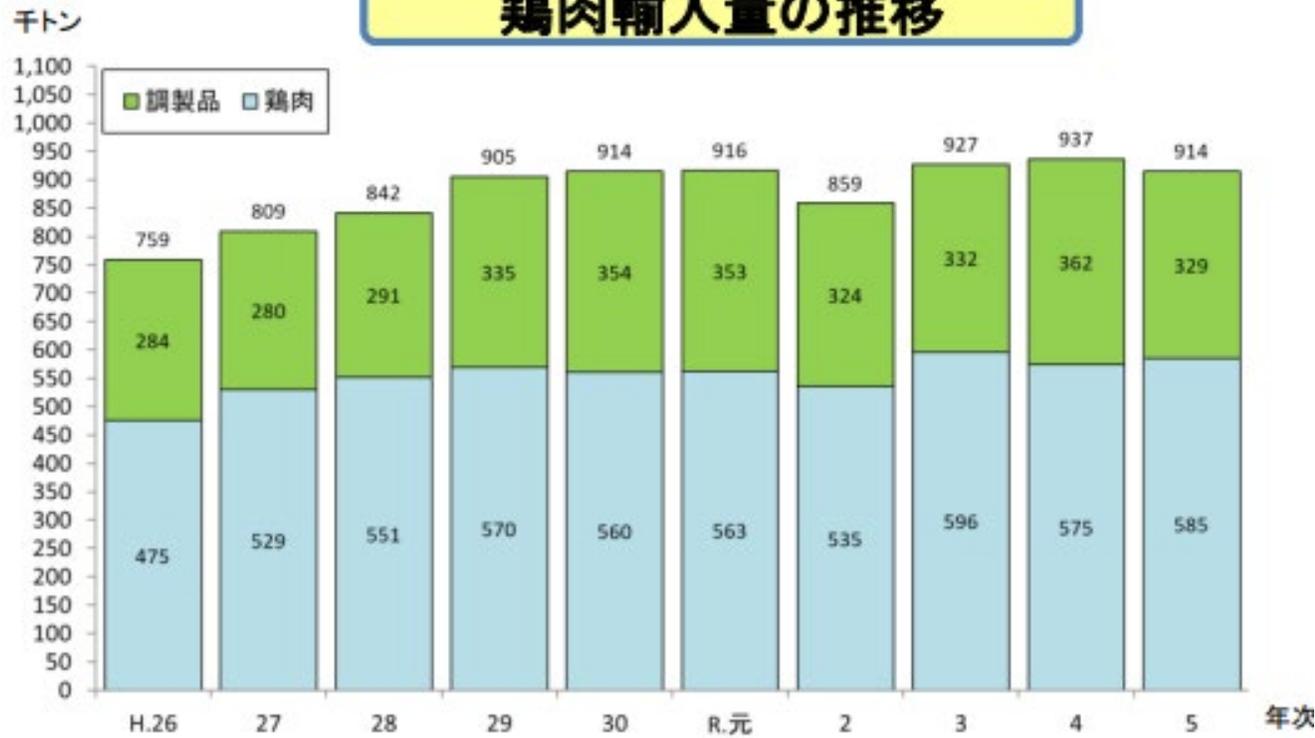


○ 鶏肉調製品輸入量の推移



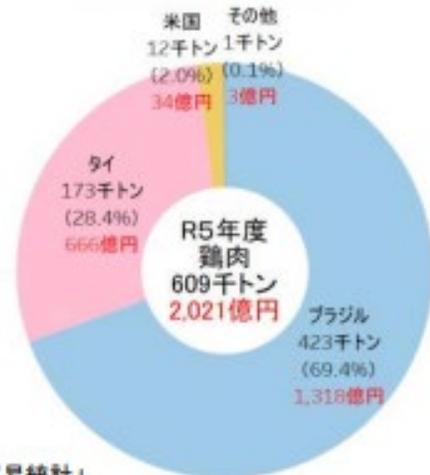
資料：財務省「貿易統計」

鶏肉輸入量の推移

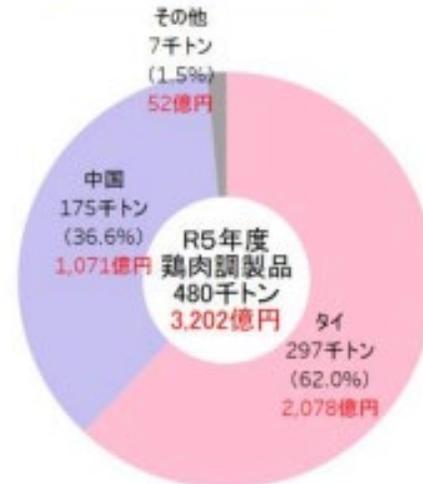


資料:財務省「貿易統計」
注1:鶏肉調製品を含む。

鶏肉



鶏肉調製品



資料:財務省「貿易統計」